

## はてなの缶詰

患者さんに病状を伝える際、  
医師はどんなことに配慮しているの？



「人権を尊重し、患者さんの立場に立った医療の実践」を基本方針に掲げる兵庫医科大学病院では、患者さんに対してきちんと説明し、ご理解いただくことが大切という考えのもと、次のようなことに努めています。

### 患者さん自身が

治療方針を決定できるように

がんなどの大きな病気の場合、以前は家族のみ病名や病状を告げ、本人には告知をしないということもありましたが、現在では「インフォームド・コンセント」という考え方が定着しています。これは、患者さん自身が正しい情報を得た上で、治療方針などに合意すること。治療前に、病名や病状、予後、想定される合併症やほかの治療法などについて医師から十分に説明し、きちんとご理解いただいた上で患者さん本人に治療方針を決めていただくようになっていきます。

### 「正確な情報」を 分かりやすく

当院では「インフォームド・コンセント委員会」を設置し、その手順や配慮すべき点をまとめたガイドラインを作成して、患者さんの意思

を尊重した医療を行っています。

患者さんやご家族に病状などをお伝えする際、医師が大切にしているのは「正確な情報」をしっかりと伝えること。患者さんの性格や精神状態などにも配慮しながら、病状などを分かりやすく説明するように努めています。

### 大切なのは信頼関係

治療に際しては、医療従事者と患者さん・ご家族が信頼関係を築き、ともに病に立ち向かっていくことが必要です。当院では、内科、外科、放射線科、病理などの医師が参加するカンファレンス（会議）で、患者さんの年齢や日常生活まで考えながら、病状や治療方針を検討しています。不安な点や疑問があれば、納得がいくまで担当の医師とご相談ください。患者さん自身が治療方針を決定し、前向きに治療を行っていくことが、もっとも大切なことなのです。